

經歷

清朝

- 1887年(光緒13年)
台湾布政使を設立
- 1888年(光緒14年)
原巡撫行署、暫時布政使司行署とする
- 1889年(光緒15年)
布政使司衙門建築完成(旧址は現在台北中山堂)
- 1892年(光緒18年)
布政使司衙門の西側に、欽差行臺を追加構築

台湾民主国

- 1895年(光緒21年5月)
欽差行臺を籌防局と名稱変更

日本統治時期

- 1895年(明治28年6月)
籌防局を總督事務所として使用
- 1933年(昭和8年)
欽差行臺を植物園に移転

中華民國

- 1965年(民国54年)
林業陳列館
- 1985年(民国74年)
二級古蹟に指定(現在は市定古蹟)
- 1998年(民国87年)
布政使司文物館成立
- 2005年(民国94年)
農委会林業試驗所が布政使司文物館を管理

館内注意事項

- 1 喫煙、飲食、走ったり、騒いだり、危険物品及ペット類の持ち込みは禁止されております。
- 2 展示品に触らないでください。

開館時間

毎週火曜日～土曜日午前九時から午後四時半まで
休館日：毎週月曜日と旧正月、祝日

交通案内



バス利用

- 1 植物園站：和平幹線、1、242、624、907、藍28
- 2 植物園站：204、630
- 3 三元街口：204、630
- 4 植物園站：242、624、907、和平幹線
- 5 建國中學(實小)：1、204、630
- 6 建國中學(歴史博物館)：1、204、630

メトロ利用

- 🚇 小南門站：3号出口から植物園の博愛路入口に向ってください。



台北植物園
Taipei Botanical Garden

出版者|黄裕星
ライター|康碩容、吳維修、董景生
日本語翻訳|林淵霖
アート・エディター|張慧娟
発行者|行政院農委會林業試驗所
所在地|100 臺北市中正區南海路53號
TEL|02-2303-9978
ホームページアドレス|www.tfri.gov.tw

布政使司 文物館について

BU-CHENG-SHIH-SZ
MUSEUM



行政院農業委員會林業試驗所
推廣摺頁第85號



布政使司文物館の歴史



台北植物園に在る「布政使司文物館」は清朝時代、光緒18年(1892)に、台湾視察の清朝中央役員接待用として建造されたもので、布政使司衙門の西側に隣接して建てられており、光緒20年(1894)に落成しました。

布政使司文物館は曾て現在の中山堂地点にあり、1895年日本統治時代は、この文物館の広場で始政式が行われました。又台湾総督府(現在の総統府)が施工から落成するまで約25年間、この文物館は台湾総督府として使用されておりました。

その後、台北市公会堂(現在の中山堂)創建の為、1933年にこの建物部分を台北植物園の現在地点に移転しまして、現在は林業試験所の管轄下にある市指定古蹟になっております。

布政使司文物館は現存している唯一の清朝時代の閩南式官署建築物で、清朝、日本統治そして中華民国時代の今もここで昔の物語りを伝えつづけております。

建築特色と空間構造

布政使司文物館は横幅七間、縦長の三部屋がつながっている様式で、順に頭門・儀門・大堂、そして左右に廂房があります。また中・左・右に廊道を構成する田の字型の閩南式伝統建築であります。建築の全体様式は整然と広く、構造は雄大で、室内は広々としています。古風で質朴な装飾には衙署建築(官署建築)の威厳と気風が現れています。

① 第一室：頭門

横幅は七間で三つの門を開けると、穿堂(通り抜きの部屋)性質の半開放空間が広がっています。中門に描かれた門神の容貌は勇猛で、両側の板壁には「鱷虎团炉」の模様が見られ、薪火相伝(作り上げた物を次の世代に引き継いでいく)を象徴しています。両旁門に描かれた文臣門神・分捧燭・花・鹿・冠は「栄華・富貴・加冠(昇官)・晋禄(昇給)」を象徴しています。

② 第二室：儀門

横幅は五間で三つの門を開けると、穿堂性質の半開放空間が広がっています。屋根は赤い板瓦と粘土の花草細工が装飾され、シンプルでしかも華やかです。さらに、屋根の両端は燕の尾のように分かれ反り上がっています。

③ 第三室：大堂

横幅は五間で、文物館で室内面積が最大で天井も最も高い空間となっています。中は16本の大きな柱が立つ雄大な構造で、その柱間距離は現存する建物の中で最も大きな最高の木造建築の一つです。

④ 左右の廂房

天井は比較的低く、屋根も緩やかです。その造形は質素で儀門後ろの渡り廊下と左右の梢間及び左右の内埋につながっています。

⑤ 左右の廊下および中廊

天井は比較的低く、屋根も緩やかです。中廊は大堂と儀門後ろの渡り廊下につながっています。左右の廊下は大堂と儀門の左右梢間につながっています。

